

陸前高田発

生コン製造工場完成



陸前高田市小友町に復興工事用の生コンクリートを製造する工場が完成しました。沿岸被災地では、防潮堤や漁港などの整備に必要な生コン

クリート不足が深刻化しています。気仙地区内で稼働中の6つの工場で製造できる量は、地区の必要量のおよそ70%でした。完成した工場の分を合わせると必要量の83%をカバーできるようになります。工場は4月末から稼働し、復興工事終了後に撤去されます。(4/16 ニュースエコー)

大槌発

魚市場完成

大船渡市の魚市場が完成しました。鉄筋コンクリート4階建ての県内最大級のこの魚市場は、2009年に着工しましたが、東日本大震災の影響で予定よりも大幅に遅れての完成となりました。漁船の入港情報が大型モニターに映し出され、入札の際もタブレット端末を使用するなど、最新の設備が導入されています。また、水産のまち・大船渡をPRする様々な展示コーナーや展望台も備えています。今後、飲食店も入る予定で観光スポットとしても注目を集めそうです。(4/17 ニュースエコー)



陸前高田発

小友小・津波避難訓練



陸前高田市の小友小学校で津波避難訓練が行われ、児童が山を抜ける新しいルートで避難場所を目指しました。訓練には全校児童76人が

参加し、避難場所への移動は交通事故の危険を避け、林の中など、時間も短縮できる新たなルートを使用しました。避難場所の高台の寺にはおよそ30分で到着し、これまでより5分ほど避難時間が短縮されました。小友小学校は東日本大震災の津波で1階部分が浸水していて、児童たちは真剣な表情で訓練に取り組んでいました。(4/18 ニュースエコー)

大槌発

「平成の杜」植樹会

津波から命を守る森の防潮堤を作ろうと大槌町で植樹会が開かれました。「平成の杜(もり)」と名付けられた植樹会は、東京に本社がある



「横浜ゴム」の復興支援活動の一環として2012年から始まり今年で3回目の開催です。植樹会には町民などおよそ600人が参加し15種類の広葉樹5000本を植えました。将来、長さ300メートルの緑豊かな防潮堤ができる予定です(4/19 ニュース)

釜石発

「八雲第一トンネル」貫通



復興に大きな役割を担う三陸沿岸道路の工事で、釜石市内の区間に新たなトンネルが貫通しました。新たに貫通したのは釜石山田道路

の仮称「八雲第一トンネル」で長さは635メートルです。これで釜石市と山田町を結ぶ全長23キロの釜石山田道路のうち、未貫通のトンネルは残り6つとなりました。開通時期は未定ですが、津波の浸水区域を避ける新たなルートは緊急時の輸送や救急搬送に効果が期待されます。(4/22 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、再生の里ヤルキタウンの「花画廊春の復興祈念大植樹祭」について伝えてくれました。再生の里ヤルキタウンは、陸前高田を甦らせる発信源としてみんなのコミュニティ広場を創ろうと活動しています。これまでも花畑を作るなどしてきましたが、5月24日に行われる植樹祭では、ユキヤナギやヤマブキなど2千2百本を植える予定です。今は、オランダから贈られたチューリップのほか桜や花桃、コブシなどが見頃だという事です。(4/23)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122